

02・ご挨拶

Twitterで、動画ツイートとして投稿する宣伝用ボイス。

そのため、頭の空白は他のトラックより短く、一秒程度にする。

シチュエーションとしては、『01・夏休み、さびれた田舎、河原で出会う』からそのまま続き。

弥映の心理状態としては、すでに、主人公の事をかなり気に入っている。

まず、可愛く思っている。

弥映は、主人公の『いかにも真面目な優等生』という雰囲気なのに、実際は河原でアダルト雑誌に夢中だった。

という……隙だらけな感じ、欲望に負けている感じに、親近感と好感を抱いた。ほほえましくて、つい、からかいたくなっているのである。

それから、心から感謝もしている。

弥映としては、民宿を紹介・案内してくれただけで十分すぎるほどにありがたかった。なのに、主人公は、自分のために買ったサンダルまでプレゼントしてくれたのである。……これには、正直に言うところ、少しドキツとしてしまった。

弥映が主人公と同年代の頃は、弥映はこんなにしっかりしていなかった。もちろん、こんなに親切でもなかった気がする。

だから素直に尊敬して憧れた。

だって主人公は、あんなところを見られて、さぞばつが悪い事だろう。それなのに、弥映の身を案じて、こんなにも大切に扱ってくれる。

さらに言えば、この警戒心の強そうな少女が、出会ったばかりの弥映を個人的に気に入って、早速懐いてくれたり、ひいきをしてくれたりしたとは思えない。

だから、誰にでもそういう対応をする、いい子なのだろう。

そんな人柄を、素敵だと思ったのだ。

つまり、弥映の心には今、主人公を

『年下扱いしてからかいたい、可愛がりたい』気持ちと、

『年齢差は関係なく、親切で素敵な人だ』と思う気持ちが同居している。

結果、なんだか負けたくなくて、前者の傾向が強まる。

年上の女性らしく、主人公をちよつとドキドキさせてやりたくなっている。

※「(笑)」は演技指示として、文字数に含めません。※

●中央

「『少しゆっくり目に。『うつろぎ』と『やえ』のあいだに短めの間を置く』

空樹 弥映（うつろぎ やえ）」

〈主人公〉

「なんだか、本名っぽくない名前ですね。本のキャラみたいな名前」

対する主人公は、本当は『芸名や、フィクションのキャラクターの名前みたいに、きれいな名前ですね』と言いたい。

だが弥映を警戒するあまり、素直になれない。

出会う方も出会う方だし、つい偽名を疑ってしまう。

でも、弥映は気にしていない。

そして、主人公は気づいていない。

普段鉄壁の『優等生リアクション』をする自分が、出会ったばかりの弥映に、こんな失礼な発言をする事。

それは、もちろん、いい事ではない。

だが……それは彼女の事を、すでにとっても気になっている証拠である事に。

●中央

「言われ慣れている。なので普通に笑って答える」
偽名っぽい？

「言いながら笑っている」

なんで（笑）。あたしそんなに怪しい感じ？

「言われ慣れている。なので普通に笑って答える」

本名だよ。でもたまに言われる。

「少し間をあけてから。話題を変える」

仕事。は。

「少し間をあけてから。しれっと言う」

なんもしてない。

【少しおどけて】

無職？

【少し間をあけてから】

だからここに来た。

【少し間をあけてから】

一回来てみたかったんだ。

こういう緑で一杯の場所。

【一呼吸あけてから。気を取り直すように】

それじゃあしばらくお世話になります。

助けてくれてありがとう。

お礼に……」

弥映、身体を近づけて、主人公の左耳に顔を寄せてささやく。

● ● 左 ささやく 至近距離 ※マークのセリフまでささやく

「少し間をあけてから、からかうようにささやく。

冗談なのか、本気なのかわからない口調で」

あの本みたいなエロい事してみる？」※

〈主人公〉

「ちょっと！」

弥映、元の距離感に戻って、真っ赤になっている主人公を見て楽しそうに笑う。

●中央

「元の位置に戻って小さく笑う。主人公の反応が面白い」

あはっ♥ 本気にした？」

弥映、距離感はこのままでささやく。

一見『冗談だよ』と続きそうなところを、そうはしない。

ひとつ前のセリフとは、明らかに声音を変えて、ドキッとさせる。

●●中央 ささやく ※マークのセリフまでささやく

「距離は変えない『中央』のままささやく。

少し間をあけてから。先ほどまでと声音を変えてドキッとさせる」

いいよ。しても」※

ここでフェードアウトして終了。